

## 第775回 定期演奏会 Aシリーズ

Subscription Concert No.775 A Series  
Fri. 19 September 2014, 19:00 at Tokyo Metropolitan Theatre (Ikebukuro)

次期音楽監督	大野 和士
終身名誉指揮者	小泉 和裕
桂冠指揮者	エリアフ・インバル
首席客演指揮者	ヤクブ・フルシヤ

指揮  
**小泉和裕** (終身名誉指揮者)

KOIZUMI Kazuhiro, Honorary Conductor for Life

2014年度Aシリーズは、東京文化会館改修工事のため、6月～11月は会場を**東京芸術劇場**に移して開催いたします。



ヴィオラ  
**鈴木 学** (ソロ首席奏者)  
SUZUKI Manabu, Viola

## 薫り高いオーストリア・プログラムが秋の一夜を彩る

小泉和裕が取り組み続けているブルックナーの交響曲から第2番をメインに、1936年ハンガリー生まれでオーストリアに亡命した作曲家エロードのヴィオラ協奏曲を組み合わせました。

### チケット料金・発売日

S ¥6,500 A ¥5,500 B ¥4,500 C ¥3,500 Ex ¥2,000

一般発売日：4月18日(金)10時

会員先行発売日：4月11日(金)10時

※会員先行および各種割引は都響ガイド・都響WEBチケットでお取り扱い。 ※割引の併用はできません。 ※ご来場での申し込みは発売日の営業日からとなります。 ※発売初日はお電話が大変混みます。インターネットをご利用いただける環境のお客様は都響WEBチケットからの申し込みをお勧めいたします。

**シルバーエイジ割引** (65歳以上/200席限定)  
A~C 30%OFF

**ジュニア割引(18歳未満)**  
学生割引  
A~C 50%OFF

**マイチョイス割引**  
「マイチョイス割引」対象の主催公演のチケットを3公演以上、合計5枚以上同時購入で20%OFF(Ex. P席は対象外)。

**託児サービス(生後4ヶ月~小学校入学前)**  
東京芸術劇場のキッズルーム03-3981-7003がご利用いただけます。利用日の7日前までにお電話で要予約。料金はお問い合わせください。

**都響おそ割**  
演奏会当日開演後に会場で発売。休憩後からのご入場です。

**ハンディキャップ割引**  
詳細は都響ガイドまでお問い合わせください。

### エロード ヴィオラ協奏曲 op.30

Eröd: Viola Concerto, op.30

### ブルックナー 交響曲第2番 ハ短調 (ノヴァーク:1877)

Bruckner: Symphony No.2 in C minor (Nowak:1877)

### 東京都交響楽団

Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

主催：公益財団法人東京都交響楽団

後援：東京都、東京都教育委員会

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(トップレベルの舞台芸術創造事業)



東京文化会館改修工事に伴い5月下旬～12月上旬にかけて都響ガイド、都響事務局は仮事務所にて営業いたします。ただし、移転中も電話番号と営業時間は変わりません。

【現住所】〒110-0007 東京都台東区上野公園5-45 東京文化会館内

【移転先】〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-21-7 住友不動産池袋西口ビル9階

※未就学のお子様はご入場できません。 ※やむを得ない事情により、出演者・曲目などが変更になる場合がございます。 ※演奏会中止の場合を除き、チケットの変更・払い戻しはいたしません。予めご了承ください。

Admission is not allowed for preschool children. Artists and programs are subject to change. Change or refund of tickets are not accepted except for cases when concerts are cancelled.

### ご予約・お問合せ



**03-3822-0727**

月～金 10～18時/土日祝 休み/主催公演開催日等は休業または営業時間が変更となります。



**http://www.tmsso.or.jp**

インターネットで座席を選んで購入できます。

### プレイガイド

※各プレイガイドでは一般価格のみでの発売となります。

東京芸術劇場ボックスオフィス  
チケットぴあ(Pコード: 229-115)  
イープラス  
ローソンチケット(Lコード: 34875)  
東京文化会館チケットサービス

0570-010-296  
0570-02-9999  
http://eplus.jp/tmsco/  
0570-000-407  
03-5685-0650





## ブルックナーの秘峰に挑む 小泉＝都響

奥田 佳道 (音楽評論家)

ブルックナー：交響曲第2番

今年3月、小泉和裕指揮の東京都交響楽団が奏でたブルックナーの交響曲第1番(オリジナルのリンツ稿)に大喝采が寄せられた。剛毅な演奏。ブルックナー芸術の源泉や過渡期的な調べを愛でつつ、ここぞという場面で「大技」を披露する小泉と都響。揺るぎない信頼関係あってこそこのライブだった。60歳代半ばのマエストロと来年50周年を迎えるオーケストラ。このコンビは今、聴き手の心を捉えて離さない。都響は、ほんとうに上手い。好調だ。

練達のキャリアを誇る小泉和裕に、ぶれも迷いもない。ベートーヴェン、ブルックナー、そしてリヒャルト・シュトラウスに夢中だ。来年3月の定期演奏会Bシリーズではベートーヴェン芸術の昇華たる《ミサ・ソレムニス》も控えるが、その前にライフワークのブルックナーに腕を揮うことになり、ファンは喜びを隠せない。構えの大

きな楽曲で本領を発揮する小泉＝都響で、またブルックナーの「交響的秘峰」を体感出来るのだ。

9月定期Aシリーズのメインは、この作曲家の個性、いや魔境が際立ち始める交響曲第2番ハ短調。1873年10月にウィーン楽友協会でのウィーン・フィル「万国博閉幕記念」公演で、作曲家自身の指揮により初演されたが、例によってその後改訂された愛すべきシンフォニーだ。小泉＝都響は1877年稿に基づくノヴァーク版、いわゆる第2稿を用い、ブルックナー独特の語法に想いを寄せることになった。後年の長篇交響曲の美質を先取りした野心的な第2番ハ短調を、聴き逃さないようにしよう。陣容を整え、ファンの声援も熱いオーケストラで聴く、ちょっとレアな交響曲。作品にとっても、これは喜ばしい事態なのではないか。

## 名手と名曲の出会い ヴィオラの美しき調べに寄せて

エロード：ヴィオラ協奏曲

世代を超えたソリスト、室内楽の担い手が顔を揃えている都響。気宇壮大なブルックナーを導くのは、1979年から80年に書かれたイヴァン・エロード(1936年ブダペスト生まれ)の内実性あふれるヴィオラ協奏曲で、主役はおなじみのソロ首席奏者・鈴木学だが、これは単なる近現代音楽の紹介、ではない。彼にとってこの協奏曲は宝物なのである。エロードのヴィオラ協奏曲を1980年にウィーンで初演したのは、鈴木学のリンツ・ブルックナー管首席奏者時代の師トーマス・リーブル(1956年ウィーン生まれ、ウィーン弦楽六重奏団などで活躍、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学教授)で、2012年にヴィオラスペースで日本初演したのは鈴木

自身。というわけで師弟の絆を映し出す美しき選曲でもあるのだ。ピアニストとしても知られる才人エロードの創作活動は旺盛で、この春にもメンデルスゾーンの音楽をモチーフとした新作が、アンドレス・オロスコ＝エストラーダ指揮のトーン・キュンストラ管弦楽団ウィーン楽友協会定期演奏会で初演されたばかりである。

ヴィオラのモノローグに始まり、響きの醸成も魅力となる第1楽章。プレストで疾走する第2楽章、そして主題の回帰や牧歌的な調べ、管弦との繊細な対話をうつつ第3楽章から成る。22分ほどの名曲だ。鈴木、小泉、都響の交歓も秋の定期のメインとなる。